

沖洲地区 地震・津波避難支援マップ

平成26年 3 月

地震・津波避難支援マップの説明

■マップの活用方法

このマップ（地図）は巨大地震に伴って発生する津波に対して、「こんな時はここを通過してここに避難しよう」と避難経路や避難場所を考えるために必要な情報をまとめたものです。避難マニュアル（指示書）ではありません。常に頃から見て、家庭や職場の避難マップ作りなどにお役立て下さい。

① 津波避難ビルと一時避難場所

津波避難ビルは徳島市が指定したもので、一時避難場所は沖洲コミュニティ協議会が独自に協力を依頼したものです。両者とも津波から身を守るために待機する場所で利用上の違いはありません。津波避難ビルは階高が3階以上の建物のみ表記しています。避難先名称下の数字は階数と3階以上の収容人数です。このマップには学校から直線距離で500m(避難所要時間約15分)を示す円を描いていますので参考にしてください。

避難場所は階段や廊下など共有スペースです。所有者・住民の方に迷惑をかけないようにして下さい。一部を除いて長期間避難滞在する場所ではありませんので、食料・毛布等の備蓄はありません。学校の収容人数は多いですが、屋間は児童・生徒が大勢いるため、外部からの避難者受け入れが難しい場合があります。一時避難場所には利用時間等の制限がある建物があります。

② 避難経路と歩行速度

避難経路は比較的幅が広く、見通しも良いものをしていますが、利用を強制するものではありません。不動産広告でよく見る『徒歩〇分』は70m/分（時速4.2km）で計算していますが、地震が発生すると、地割れ、家屋倒壊による道路の閉塞の他、負傷者や高齢者、幼児などの介助などで避難歩行速度は半分以下になると言われています。

③ 地盤の液状化現象と避難

巨大地震が発生すると広い範囲で地盤の液状化現象が起こると予想されています。砂や水が噴き出したりしますが、その状態は長く続くものではなく、現象が終わった後は歩行できないわけではありません。ただしアスファルト舗装道路は直下の地盤が緩んで陥没したり、変形したりする恐れがあります。また地中に埋設されている下水管やマンホール等が浮き上がる可能性もあり、避難の大きな妨げになると予想されています。

避難を阻害する要因には、家屋やブロック塀の倒壊、屋根瓦等の落下による道路閉塞のほか、負傷者、高齢者、幼児の介助などもあり、避難は通常速度（70m/分程度）の半分以下になると言われています。

④ 地盤標高と津波の高さ

この地図に示した地盤標高は東京湾平均海面（T.P.）の高さを基準とした海拔です。

徳島県が公表する津波高さの予測値はT.P.上の高さで計算していますが、朔望平均満潮時[※]+0.876m（徳島・小松島）を加えた水位を基準に計算しています。ただし夏場には+0.876mよりも0.3mほど高くなる時期があります。また低気圧が接近すれば更に上昇しますので注意が必要です。

地震による地盤沈下も忘れてはいけません。津波の高さだけに気を取られずに津波に備えることが肝要です。

※朔望平均満潮時：新月および満月の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値のことです。

< 凡例 >

- 幹線避難路
- 主な避難路と方向
- 津波避難ビル(3階建以上)
階数（3階以上の収容人数）
- 鍵ボックス
震度5強以上で建物の鍵を取り出せます
- 一時避難場所(3階建以上)
階数（3階以上の収容人数）
黄色は利用に制約がある場所です。
〔 〕内は利用可能日時
- 標高（海拔 単位:m）

製作 沖洲コミュニティ協議会/徳島大学環境防災研究センター/徳島市

〔この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2,500地形図を複製したものである。〕
〔承認番号 徳島市消防部第123号〕

